



Michigan Newsletter

February 2026

No.17

ミシガン州経済交流駐在員

経済交流

1. 日米の懸け橋に！日本関連企業の集まる就職フェア
2. 初！アイスクリームショップでの近江の茶試飲会

ページ1～2

ミシガントピック

1. ホイトマー州知事 2026 年施政方針演説

ページ3～4

経済交流

1. 日米の懸け橋に！日本関連企業の集まる就職フェア

2月5日、日本語や文化を理解し、日本への滞在経験などを持った日米の懸け橋となる人材にフォーカスしたユニークな就職フェアがノバイ市にて開かれました。求職者は約 200 名、参加企業は 25社に上りました。会場の滋賀県ブースにて、姉妹県州のプログラムやイベントについてPRする機会を頂きました。

スポンサーでもあり、会場となったノバイ市には、州内で最大の日本人コミュニティを有し、幼稚園から高等部まで約 1000 人の日本人が週末に通い日本のカリキュラムで日本語や教科を学ぶ補習校が存在することでも知られ、この就職フェアにも大変協力的です。参加企業から求職者に対して、「今日がキャリアのスタートとなる日です、オープンで好奇心を持ってブースを回ってほしい。思いがけない、想像していなかった出会いからキャリアがスタートすることが多々ある。」との激励もありました。

開会式後、求職者は各自企業ブースを回り担当者から話を聞き情報収集を行いました。中には、滋賀県で外国語指導助手を経験した方や、JCMU留学経験者も複数みられました。なんと、企業ブースを運営している社員の中にもJCMU留学経験者がいました。

参加者に感想を聞いてみると、自動車関連の日本企業が多いのでエンジニアの採用が中心かと思っていたが、自分の専攻に近い分野の募集があると知った、法律事務など知らなかった分野で興味の幅が広がった、一度に複数の企業の採用担当者の話を聞け、さらにどれも日本につながるのある会社であることから今後の就職活動の励みになった、など前向きな声が聞かれました。

世界が混とんとしている時だからこそ、大学で日本語を学習したり、文化を学んだ学生たちが、日米の懸け橋として就職後も日本とのつながりを持ち続けてもらい、両国の経済関係、そして友好関係を支えてくれればと思います。こうした就職フェアに今後も協力していきたいと思います。

2. 初！アイスクリームショップでの近江の茶試飲会



2月28日、県みらいの農業振興課の職員が近江の茶プロモーションのためミシガン州を訪問するのに合わせ、食のブランド推進室と国際課がマーシャル市内のアイスクリームショップで近江の茶試飲会を企画しました。

遡ること2024年8月、マーシャル・甲賀姉妹提携40周年の記念イベントで甲賀市の抹茶を使った「Sister City Matcha」アイスクリームが来場者に配布され大人気に。このアイスクリームを作ったマーシャル市内のアイスクリームショップのオーナーから、ぜひ「Sister City Matcha」をレギュラーメニューにしたいので抹茶の仕入れ先を紹介してほしいとのオファーを駐在員にいただき、姉妹交流関係者を通じて商品の情報を紹介、その後実際に購入いただき、2025年7月から実際にアイスクリームショップの店頭で「Sister City Matcha」アイスクリームの販売が開始されました。

新しい味のアイスを生み出すのが大好きというオーナーの手にかかり、レモンジュースと蜂蜜を隠し味にした本格的な抹茶アイス。色も濃厚で、とてもクリーミーなのに甘ったるくない、日本でもこんな抹茶アイスは簡単に見つからないのでは思うほどで、個人的には、間違いなくミシガンで一番の抹茶アイスです



試飲では、甲賀市の焙じ茶を味わっていただきました。その場で茶葉を焙じ、ふわっと香ばしい香りが店内に広がりました。オーナーの計らいで、イベント期間中限定で、ミニサイズの「Sister City Matcha」アイスが希望者に無料で配られました。うれしかったのは、「Sister City Matcha」アイスを片手に、イベント開始前から待っていてくれた参加者がいたこと。日本語を学ぶ学生、昨年7月友好親善使節団の参加者、将来子供を甲賀市との中学生交流に参加させたいという家族連れの方、姉妹交流関係者も駆けつけてくれました。中にはイベント開始から終わりまで、ずっと店内にいてくださった方もおられ、マーシャル市の人たちやコミュニティの温かさをひしひしと感じました。



地域に愛され、ファンの多いこの店を始めて訪問し、オーナーと話をしたときから、この素敵な店内で、姉妹都市甲賀市の抹茶を使った「Sister City Matcha」アイスと一緒に甲賀市のお茶を地域の人たちに楽しんでもらうのを夢のように想像していました。当日はたくさんの方に試飲と抹茶アイスを楽しんでもらい感無量でした。今回は近江の茶の販売は実施しなかったのですが、試飲された方からは、お茶を買いたいという声が多く上がり、今後の近江の茶の販路拡大につながっていけばと思います。

ミシガンピック

1 ホイットマー州知事 2026 年施政方針演説

2 月 25日の夜、ホイットマー州知事による、州知事として最後、8 回目となる施政方針演説(State of the State Address)が行われ、州全体に生放送されました。演説の中で、ホイットマー州知事は、在任 7 年間の成果をさらに発展させていくため、重点事項として、以下の「教育」「住宅」「医療」の3つを提案しました。

(1)教育

昨年の演説から引き続き、今年もこの読み書き能力を向上させることが政策の中心となっています。州知事の「(子供たちの)可能性は普遍的ですが、機会も普遍的ではありません。」という言葉から重点政策である背景が感じられます。

読み書き能力、識字教育への重点的な投資を行い、「すべての子どもが読書をする」というシンプルで明確な目標を掲げ、読書教育をより早期に開始することを提案。さらに、これを就学前教育へとつなげていくこと、すべての子どもが成功できるよう、無料の全日制就学前教育に資金を提供することを提案しました。

なお、今月初め、授業中の携帯電話の使用を制限する法案に署名したことにも言及がありました。(昨年の演説では、学生の 95% がスマートフォンを利用でき、半数が「ほぼ常に」オンラインになっていることに触れ、授業中の携帯電話の使用を制限する超党派の法案の可決を表明していました。)

(2)住宅

昨年の演説では、住宅価格の高騰、住宅購入者の平均年齢が 56 歳と過去最高を記録していることに触れ、住宅の建設、購入、または修理するというミシガン州史上最大の住宅投資を提案していました。この一年で、年間 7 万 5000 戸の住宅増設という目標を当初の予定より前倒しで達成しており、現在、8 万 6000 戸の住宅を増設中です。新たな目標である 11 万 5000 戸の達成に向けて順調に進んでいること、さらに住宅不足は 44%解消され、住宅所有率は全国平均を上回り、ほぼ 75%を維持していることが強調されました。

そのうえで、関税によって住宅価格が上昇し、住宅不足を悪化させていることに対し、州内で質の高い、手頃な価格の住宅をどんどん建てることを提案。さらに、州レベルの新たな手頃な価格の住宅に対する税額控除の導入、ゾーニングと建築基準を改善することで、より多くの住宅をより迅速かつ低コストで建設することにも言及されました。

(3)医療

昨年、病気になっても医療費を支払う余裕がなかった州民が 50 万人以上いる中で、21 万人の医療費の負担を帳消しにしたことに触れ、さらに医療費の負担軽減を目指すため以下の考えが表明されました。

- ・医療費の負債に対する金利に上限を設ける。
- ・医療費の負債が信用情報に記録されないようにする。

- ・病院に患者向けの財政支援プログラムを設けるよう義務付ける。
- ・医療費の負債を理由とした住宅の差し押さえや差し押さえを禁止する。

メディケイド(所得やリソースが限られており、他の要件を満たしている場合 に医療費を援助する連邦政府と州の共同プログラム)については、昨年、連邦政府の予算削減により、250 万人の州民が保険を失うリスクにさらされ、地方や医療サービスが不足している地域の病院が危機に瀕する可能性があったことから、予算案では、メディケイドのサービスに数十億ドルの資金を確保したことに言及がありました。

ここまで見てきた「教育」「住宅」「医療」以外で、これまでの成果として、州史上最大の超党派による道路整備協定のおかげで、あらゆる場所で道路の整備を進めていること、25 歳以上の州民は、準学士号または資格証書を授業料無料で取得できること、140 万人の公立学校の生徒全員が無料の朝食と昼食を得られるため、飢える子供は一人もいないことに触れられました。さらに、何千もの地元の雇用と何百もの軍人家族を支えている空軍州兵の施設であるセルフリッジ基地に新たな戦闘機の任務が生まれ、基地閉鎖の懸念は払拭されたことも言及されました。

演説の最後には、州民へのメッセージがありました。

83 郡すべてを何度も訪れ、あらゆる問題の最前線で闘う州民と出会いました。この 7 年間、多くの暗闇に直面しながらも、私は州民の中に見出した光に圧倒されてきました。私たちの州には、家族を深く思いやり、地域社会をより良くしたいと願う、善良で誠実、そして勤勉な人々が溢れています。

だからこそ、私はミシガン州の未来に楽観的です。この州の個性を形作っているのは、粘り強く、前向きに行動する姿勢です。

経済の不確実性、政治的分断が増す中で、ホイットマー州知事がこれまで出会った州民に触れ「ミシガン州の未来に楽観的」と言い切っているのがとても印象的でした。誰もが皆、前進する道を探し求めており、どんな困難が訪れようとも必ず乗り越えられるというメッセージは、厳しい状況の中でも希望に満ちており、多くの州民に届いたのではないかと思います。